

第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡るが、そのすべてについて解明されている。
- b 検査薬の検査結果については、正しい解釈や判断がなされなければ、医療機関を受診して適切な治療を受ける機会を失うおそれがある。
- c 医薬品は期待される有益な効果（薬効）のみをもたらすものである。
- d 医薬品は、本来、人体にとって異物（外来物）である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問2

次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の役割を十分に発揮するためには、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者が適切に使用することが必要である。
- b 一般用医薬品は、一般の生活者が自ら選択し、使用するものであるため、登録販売者等の情報提供は必要としない。
- c 医薬品は、市販後にも、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっている。
- d 一般用医薬品では、そのリスク区分や承認基準が見直されることはない。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問3

医薬品の薬理作用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 薬物が生体の生理機能に影響を与えることを薬理作用という。
- 2 通常、医薬品は、複数の薬理作用を併せ持つ。
- 3 一般用医薬品を使用した場合、期待される有益な反応（主作用）以外の反応が現れることはない。
- 4 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用が、別の疾病に対しては症状を悪化させることがある。

問4

医薬品の副作用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 体質や体調は副作用とは無関係である。
- b 一般用医薬品では、副作用の兆候が現れたときには基本的に使用を中止することとされている。
- c 副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりとは限らない。
- d 一般用医薬品を継続して使用する場合、異常が感じられなければ特に定期的に検診を受ける必要はない。

- 1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問5

次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルギーには遺伝的な要素があり、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、注意が必要である。
- b アレルギーは、医薬品の薬理作用等とは関係なく起こり得るものである。
- c アレルギーは、内服薬だけでなく外用薬等でも引き起こされることがある。
- d 基本的に医薬品の添加物は、アレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）にはなりえない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問6

一般用医薬品の使用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 適切な選択、適正な使用がなされなければ、症状の悪化、副作用や事故等の好ましくない結果（有害事象）を招く危険性が高くなる。
- b 大人用の一般用医薬品を、子供に服用させる場合は、大人用のものを全て半分にして服用させればよい。
- c 一般用医薬品は作用が緩和であるため、薬物依存が形成されることはない。
- d 人体に直接使用されない医薬品でも、使用する人の認識不足によって有害事象につながることもある。

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問7

医薬品の相互作用等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰薬、アレルギー用薬等では、成分や作用が重複することが多く、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用は避けることとされている。
- b 食品には、医薬品の成分と同じ物質を含むものもある。
- c 酒類（アルコール）は、医薬品の吸収や代謝に影響を与えることがある。
- d 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用されることが多く、医薬品同士の相互作用に関して特に注意が必要となる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問8

成人と比較した場合の小児と医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児は、医薬品を受けつける生理機能が未発達である。
- b 小児は、服用した医薬品の吸収率が低い。
- c 小児は、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすいため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。
- d 小児は、医薬品の成分の代謝・排泄速度が速く、作用が現れにくい。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問9

第1欄の記述は医薬品の使用上の注意の記載に関するものである。()の中に入れるべき正しい字句は第2欄のどれか。

第1欄

医薬品の使用上の注意において「高齢者」という場合には、おおよその目安として()以上を指す。

第2欄

- 1 60歳
- 2 65歳
- 3 70歳
- 4 75歳
- 5 80歳

問10

高齢者と医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が強く現れやすい。
- b 高齢者の場合、どの程度副作用を生じるリスクが増大しているか、その年齢のみから判断することができる。
- c 一般用医薬品を使用する際、定められた用量以下に量を減らしても十分な効果が得られなくなるだけで、必ずしもリスクの軽減にはつながらない。
- d 高齢者は、持病(基礎疾患)を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 11

第 1 欄の記述は医薬品と妊婦及び妊娠していると思われる女性に関するものである。()
の中に入れるべき正しい字句は第 2 欄のどれか。

第 1 欄

() 含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常
を起こす危険性が高まるとされている。

第 2 欄

- 1 ビタミン A
- 2 ビタミン B₁
- 3 ビタミン B₂
- 4 ビタミン B₆
- 5 ビタミン C

問 12

プラセボ効果に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果という。
- 2 プラセボ効果は、客観的に測定可能な変化として現れることもあるが、不確実であり、それを目的として医薬品が使用されるべきではない。
- 3 プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、すべて望ましいもの(効果)である。
- 4 プラセボ効果に関与しているものの一つとして、条件付けによる生体反応が考えられている。

問 13

医薬品の品質に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の配合成分には、高温や多湿によって品質の劣化を起こしやすいものがある。
- b 光（紫外線）は、医薬品の配合成分の品質劣化には影響を及ぼさない。
- c 医薬品は、適切な保管・陳列をすれば、経時変化による品質の劣化はない。
- d 一般用医薬品は、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることが重要である。

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問 14

一般用医薬品の役割として、該当するものを正、該当しないものを誤とした場合の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生活の質（QOL）の改善・向上
- b 健康状態の自己検査
- c 軽度な疾病に伴う症状の改善
- d その他保健衛生（衛生害虫の防除、殺菌消毒等）

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 15

セルフメディケーションと情報提供に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 セルフメディケーションの主役は一般の生活者である。
- 2 登録販売者は、常に科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが期待されている。
- 3 情報提供をする際、医療機関の受診を勧めたり（受診勧奨）、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合がある。
- 4 一般用医薬品を一定回数使用しても症状の改善がみられないときや悪化したときには、登録販売者として、別の一般用医薬品を勧めることでセルフメディケーションを推進する必要がある。

問 16

一般用医薬品購入者への情報提供等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 購入者の生活習慣病等の慢性疾患の種類や程度は、一般用医薬品の有効性や安全性に影響を与えない。
- b 医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人については、登録販売者において一般用医薬品との併用の可否を判断することは困難なことが多い。
- c 過去に医療機関で治療を受けていた(今は治療を受けていない)購入者への情報提供時には、どのような疾患について、いつ頃かかっていたのか、考慮する必要がある。
- d 医療機関での治療は特に受けていない場合であっても、医薬品の種類や配合成分等によっては、特定の症状がある人が使用するとその症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 17

次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊婦が一般用医薬品を使用する際には、胎児に影響を及ぼすことがないように配慮する必要がある。
- b 医薬品の種類を問わず、授乳婦の体に吸収された医薬品の成分は、乳汁中に移行することはない。
- c 便秘薬は、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがある。
- d 妊娠の有無やその可能性については、購入者側にとって他人に知られたくない場合もあることから、登録販売者が情報提供や相談対応を行う際には、十分に配慮することが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 18

次の（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

スモン訴訟は、（ a ）剤として販売されていた（ b ）製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。

	a	b
1	点眼	キノホルム
2	点眼	マレイン酸クロルフェニラミン
3	鎮痛	アスピリン
4	整腸	アスピリン
5	整腸	キノホルム

問 19

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）及びCJD訴訟に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a CJDは認知症に類似した症状が現れるが、死に至る重篤なものはない。
- b CJDは、細菌でもウイルスでもない蛋白質^{たん}の一種であるプリオンが原因とされている。
- c CJD訴訟では、国は被告とならなかった。
- d 現在は、CJD症例情報の把握、ヒト乾燥硬膜の移植の有無を確認するための患者診療録の長期保存等の措置が講じられている。

1（a、b） 2（a、c） 3（b、d） 4（c、d）

問 20

HIV及びHIV訴訟に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ヒト免疫不全ウイルスのことをHIVという。
- 2 血友病患者が、HIVが混入した原料血漿^{しょう}から製造されたアルブミン製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- 3 HIV訴訟の和解を踏まえ、国は、HIV感染者に対する恒久対策として、拠点病院の整備や治療薬の早期提供等の取組みを推進している。
- 4 HIV訴訟を契機に血液製剤の安全確保対策の1つとして、献血時の問診の充実が図られた。

第3章 主な医薬品とその作用

問21

かぜ薬で使用される医薬品の成分とその注意点の組み合わせのうち、誤っているものはどれか。

- | | | |
|----------------------|---|--|
| 1 塩化リゾチーム | - | 鶏卵アレルギーの既往歴がある人は使用を避ける。 |
| 2 イブプロフェン | - | 胃・十二指腸潰瘍 ^{かいよう} の既往歴のある人に再発を招くおそれがある。 |
| 3 ビタミンB ₂ | - | 尿が赤くなることがある。 |
| 4 塩酸ジフェンヒドラミン | - | 排尿困難の症状のある人は悪化を招くおそれがある。 |

問22

第1欄の記述は、かぜの症状の緩和に用いられる漢方処方製剤に関するものである。第1欄の記述に該当するものとして正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

かぜのひき始めで、寒気がして発熱、頭痛があり、体のふしづしが痛い場合に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）は使用を避ける必要がある。

第2欄

- 1 小青竜湯^{しょうせいりゅうとう}
- 2 半夏厚朴湯^{はんげこうぼくとう}
- 3 香蘇散^{こうそさん}
- 4 柴胡桂枝湯^{さいこけいしとう}
- 5 麻黄湯^{まおうとう}

問 23

解熱鎮痛薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 化学的に合成された解熱鎮痛薬を服用する場合に限り、適量の飲酒が推奨される。
- b アスピリンについては、一般用医薬品では、小児（15歳未満）に対してはいかなる場合も使用しないこととなっている。
- c エテンザミドについては、痛みの発生を抑える働きが中心である他の解熱鎮痛成分に比べ、痛みの伝わりを抑える働きが優位であるとされている。
- d 専ら小児の解熱に用いられるアセトアミノフェンが配合された坐薬は、内服薬である他の解熱鎮痛薬やかぜ薬と併用されることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 24

催眠鎮静薬とその成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a プロムワレリル尿素は、脳の興奮を抑え、痛みを感じる感覚を鈍くする作用を示すことから、解熱鎮痛薬に配合されることがある。
- b 生薬成分のみからなる鎮静薬や漢方処方製剤については、飲酒を避けることとはなっていないが、アルコールが睡眠の質を低下させ、催眠鎮静薬の効果を妨げることがある。
- c プロムワレリル尿素を含む催眠鎮静薬は、妊婦の睡眠障害に適している。
- d プロムワレリル尿素の反復摂取によって依存を生じている場合は、自己努力のみで依存からの離脱を図ることは容易である。

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問 25

グリチルリチン酸に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品では1日摂取量がグリチルリチン酸として200mgを超えないように用量が定められているが、かぜ薬以外の医薬品にも配合されていることが少なくなく、(a)として一般食品や医薬部外品などにも広く用いられるため、購入者等に対して、摂取されるグリチルリチン酸の総量が継続して多くならないよう注意を促すことが重要である。また、グリチルリチン酸を含む生薬成分として、(b)が配合されている場合もある。

	a	b
1	甘味料	マオウ
2	保存料	カンゾウ
3	調味料	ダイオウ
4	保存料	マオウ
5	甘味料	カンゾウ

問 26

鎮咳去痰成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 延髄の咳嗽中枢に作用し、咳を抑える成分として、塩酸メチルエフェドリンがある。
- b 延髄の咳嗽中枢に作用する鎮咳成分の中には、モルヒネと同じ基本構造をもち、依存性があるものがある。
- c 延髄の咳嗽中枢に作用する鎮咳成分の中には、吸収された成分が胎盤関門を通過して胎児に移行するものがある。
- d 気道粘膜からの分泌を促進させる作用を示す去痰成分として、塩酸エチルシステインがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 27

気管支拡張成分に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

塩酸トリメトキノール、塩酸メトキシフェナミン等の(a)作動成分は、(b)神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にする。

	a	b
1	コリン	副交感
2	アドレナリン	副交感
3	コリン	交感
4	ノルアドレナリン	副交感
5	アドレナリン	交感

問 28

第 1 欄の記述は、鎮咳去痰^{がいたん}作用を示す生薬成分に関するものである。第 1 欄の記述に該当するものとして正しいものは第 2 欄のどれか。

第 1 欄

バラ科のアンズの種子を用いた生薬で、体内で分解されて生じた代謝物の一部が延髄^{ずい}の呼吸中枢^{がいそう}、咳嗽中枢を鎮静させる作用を示すとされる。

第 2 欄

- 1 ゴミシ
- 2 キョウニン
- 3 シャゼンソウ
- 4 セネガ
- 5 セキサン

問 29

口腔咽喉薬・含嗽薬とその成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 口腔咽喉薬は、口腔内又は咽頭部の粘膜に局所的に作用して、それらの部位の炎症による痛み、腫れ等の症状の緩和を主たる目的とするもので、炎症を和らげる成分、殺菌消毒成分、去痰成分が組み合わされて配合されている。
- 2 含嗽薬は、用時水に希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。
- 3 有効成分が生薬成分のみからなる製品で、その効能・効果が「痰、喉の炎症による声がれ、喉の荒れ、喉の不快感、喉の痛み」のものは医薬部外品として扱われる。
- 4 ヨウ素系殺菌消毒成分が配合されたものは、まれにショック（アナフィラキシー）のような全身性の重篤な副作用を生じることがある。

問 30

登録販売者の対応として、正しいものはどれか。

- 1 心臓病の診断を受けた人の喘息症状の緩和に、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談することなく、マオウが配合された製品を勧めた。
- 2 咳がひどく、痰に線状の血が混入している症状に対し、鎮咳去痰薬を勧めた。
- 3 飲食物を飲み込む時に激しい痛みを感じるとのことだったので、含嗽薬を勧めた。
- 4 ヨウ素は、ビタミンC等の成分と反応すると殺菌作用が失われるため、レモンやお茶などの食品を摂取した直後は、ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽薬を使用しないよう伝えた。

問 31

胃腸に作用する薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 健胃薬は、炭水化物、脂質、蛋白質等の分解に働く酵素を補う等により、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的とする医薬品である。
- b 制酸薬は、胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐き気等の症状を緩和することを目的とする医薬品である。
- c 健胃薬、消化薬、整腸薬又はそれらの目的を併せ持つものには、医薬部外品として製造販売されている製品もある。
- d 消化薬は、弱った胃の働きを高めることを目的とする医薬品である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 32

次の記述は、制酸薬に関するものである。()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

水酸化アルミニウムゲルや(a)などの制酸薬は、(b)の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する(c)が低下することが考えられる。

	a	b	c
1	アズレンスルホン酸ナトリウム	酸度	中和作用
2	アズレンスルホン酸ナトリウム	アルカリ度	還元作用
3	沈降炭酸カルシウム	酸度	中和作用
4	沈降炭酸カルシウム	アルカリ度	還元作用
5	沈降炭酸カルシウム	酸度	還元作用

問 33

胃の薬に用いられる成分とその作用との関係のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

(成分)	(作用)
a 合成ヒドロタルサイト	- 制酸作用
b 塩酸ピレンゼピン	- 健胃作用
c ウルソデオキシコール酸	- 利胆作用
d ロートエキス	- 胃粘膜保護作用

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 34

腸の薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a タンニン酸アルブミンは、卵に含まれるカゼインに由来するため、鶏卵アレルギーの人には使用を避ける必要がある。
- b 次硝酸ビスマスは、腸粘膜の蛋白質と結合し、収斂作用により炎症を鎮める。
- c 塩酸ロペラミドは、食べ過ぎ・飲み過ぎによる下痢に用いられる。
- d ヒマシ油は、瀉下薬として比較的作用が穏やかなため、主に乳幼児の便秘に用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 35

第 1 欄の記述は、腸の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関するものである。第 1 欄の記述に該当するものとして正しいものは第 2 欄のどれか。

第 1 欄

比較的体力があり、下腹部痛があつて、便秘しがちな人における、月経不順、月経困難、便秘、痔疾じに適するとされる。体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

第 2 欄

- 1 桂枝加芍薬湯けいし かしやくやくとう
- 2 大黃甘草湯だいおうかんぞうとう
- 3 大黃牡丹皮湯だいおうぼたんぴとう
- 4 麻子仁丸ましにんがん
- 5 六君子湯りっくんじとう

問 36

コレステロールに関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 コレステロールは、食事から摂取された糖及び脂質から主に産生されるが、生体に不可欠な物質ではない。
- 2 高コレステロール改善薬の使用による対処は、食事療法、運動療法の補助的な位置づけである。
- 3 高コレステロール改善薬は、ウエスト周囲径を減少させるなどの瘦身効果もうを目的とする医薬品である。
- 4 生活習慣の改善を図りつつ、しばらくの間(1～3ヶ月)高コレステロール改善薬を使用して検査値に改善がみられない時でも、使用を継続すべきである。

問 37

貧血用薬の配合成分とその作用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ビタミンCは、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として配合される。
- 2 銅は、補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で配合される。
- 3 コバルトは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンDの構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で配合される。
- 4 マンガンは、糖質・脂質・蛋白質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で配合される。

問 38

強心薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a リュウノウは、フタバガキ科のリュウノウジュの樹幹の空隙に析出する精油の結晶を用いた生薬で、鎮静作用を期待して用いられる。
- b シンジュは、ウグイスガイ科のアコヤガイ等の殻内肉組織中に形成される球状の塊を粉末にしたもので、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。
- c ロクジョウは、シカ科のシベリアジカ、マンシュウアカジカ等の雄の幼角を用いた生薬で、強心作用の他、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。
- d ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を鎮める等の作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 39

高コレステロール改善薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a パンテチンは、肝臓におけるコレステロール代謝を正常化する働きがあるとされ、高密度リポ蛋白質（HDL）の分解を促し、また、低密度リポ蛋白質（LDL）が形成される過程に働いて、LDLを増加させる効果を期待して用いられる。
- b ソイステロールには、末梢組織におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- c ポリエンホスファチジルコリンは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- d ビタミンB₂は、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害の緩和等を目的として用いられる。

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問 40

次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

体の不調による動悸^き、息切れは、睡眠不足や疲労による(a)の働きの低下のほか、不安やストレス等の(b) また、女性では貧血や、更年期に生じる(c)などによっても起こることがある。

	a	b	c
1	心臓	精神的な要因	神経症状
2	肺	精神的な要因	ホルモンバランスの乱れ
3	心臓	日常生活の乱れ	神経症状
4	肺	日常生活の乱れ	神経症状
5	心臓	精神的な要因	ホルモンバランスの乱れ

問 41

痔疾用薬の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一定期間使用してもなお、排便時の出血、痛み等が続く場合には、肛門癌などの重大な病気の症状である可能性も考えられる。
- b 痔疾用薬のうち坐剤及び注入軟膏は外用なので、成分が直腸で吸収されて循環血液中に入ることはない。
- c 痔疾用薬の使用と併せて、痔を生じた要因となっている生活習慣の改善等が図られることが重要である。
- d 内用痔疾用薬は、比較的緩和な抗炎症作用、血行改善作用を目的とする成分等が配合されたもので、外用痔疾用薬と併せて用いると効果的なものである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 42

痔疾用薬の成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 カイカヤカイカクは、止血効果を期待して、内用痔疾用薬に配合されている。
- 2 セイヨウトチノミは、抗炎症作用を期待して、内用痔疾用薬に配合されている。
- 3 カンフルやメントールは、冷感刺激を生じさせる局所刺激成分として、外用痔疾用薬に配合されている。
- 4 イソプロピルメチルフェノールは、肛門周囲の末梢血管の血行を促して、鬱血を改善する効果を期待して、内用痔疾用薬に配合されている。

問 43

生薬成分に関する記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。

泌尿器用薬の成分のうち、()は、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示し、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる。

- 1 カゴソウ
- 2 ウワウルシ
- 3 ブクリョウ
- 4 モクツウ
- 5 キササゲ

問 44

婦人用薬に用いられる生薬成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a コウブシは、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- b サンソウニン、利尿作用を期待して配合されている場合がある。
- c トウキは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和する作用を期待して配合されている場合がある。
- d モクツウは、胃腸症状に対する効果を期待して配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 45

第 1 欄の記述は、ある漢方処方製剤の適用となる症状、体質、主な副作用の説明である。第 1 欄の記述に該当するものとして正しいものは第 2 欄のどれか。

第 1 欄

比較的体力が乏しく、冷え症で貧血の傾向があり疲労しやすく、ときに下腹部痛、頭重等を訴える人における、月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、産前産後又は流産による障害（貧血、疲労倦怠、めまい、むくみ）等に適すとされるが、胃腸の弱い人では、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

第 2 欄

- 1 加味逍遙散 かみしょうようさん
- 2 当帰芍薬散 とうきしゃくやくさん
- 3 桂枝茯苓丸 けいしぶくりょうがん
- 4 温経湯 うんけいとう
- 5 温清飲 うんせいいん

問 46

次の表はあるアレルギー用薬に含まれる成分の一覧である。

成人 1 日量（6錠中）	
グリチルリチン酸二カリウム	180 mg
リン酸ピリドキサル	12 mg
マレイン酸クロルフェニラミン	9 mg

このアレルギー用薬に含まれる成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分が配合されており、口渇などの副作用が現れることがある。
- b リン酸ピリドキサルは、鼻腔内の刺激を伝達する副交感神経系の働きを抑えることにより、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として配合されている。
- c グリチルリチン酸二カリウムは、皮膚や粘膜の健康維持・回復に重要なビタミンを補給することを目的として配合されている。
- d 本剤を服用した後は、眠気が現れることがあるので、乗物又は機械類の運転操作を避けるよう説明する必要がある。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 47

鼻に用いる医薬品に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 塩酸ナファゾリンが配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- 2 クロモグリク酸ナトリウムは、抗ヒスタミン薬と併用されると副作用が現れやすいので組み合わせて用いられない。
- 3 塩化ベンゼトニウムは、局所麻酔成分として、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒み^{かゆ}を抑えることを目的として配合される。
- 4 塩酸リドカインは、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として配合される。

問 48

次の表はある点眼薬に含まれている成分の一覧である。

10 mL 中	
スルファメトキサゾールナトリウム	4.00 %
マレイン酸クロルフェニラミン	0.02 %
グリチルリチン酸二カリウム	0.15 %
酢酸トコフェロール	0.01 %

この点眼薬の効能・効果として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 眼瞼炎（まぶたのただれ）
- b 緑内障
- c 目の洗浄
- d 結膜炎（はやり目）

- 1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

問 49

点眼薬に使用されるメチル硫酸ネオスチグミンの配合目的として、正しいものはどれか。

- 1 目の調節機能を改善する。
- 2 炎症を抑える。
- 3 結膜、角膜の乾燥を防ぐ。
- 4 目の痒み^{かゆ}を抑える。

問 50

きず口等の殺菌消毒成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせどれか。

- a グルコン酸クロルヘキシジンは、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- b オキシドールは、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
- c エタノールは、皮膚刺激性が強いため、粘膜（口唇等）や目の周りへの使用は避ける必要がある。
- d マーキュロクロムは、真菌、結核菌、ウイルスに対しては効果がない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 51

外皮用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a イオウは、角質層のケラチンを変質させて角質軟化作用を示すとともに、抗菌、抗真菌作用も期待されるため、にきび用薬等に配合されている場合もある。
- b サルファ剤は、細菌のDNA合成を阻害することによる抗菌作用を示す。
- c サリチル酸は、角質成分を溶解することにより角質軟化作用を示す。
- d 白色ワセリンは、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することを目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 52

毛髪用薬に用いられる成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 塩化カルプロニウムは、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- 2 ヒノキチオールは、女性ホルモン成分の一種であり、脱毛抑制効果を期待して用いられる。
- 3 カシュウは、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。
- 4 チクセツニンジン は、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。

問 53

歯槽膿漏薬に含まれている成分とその作用との関係のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

(成分)	(作用)
a 銅クロロフィリンナトリウム	- 歯周組織の出血を抑える
b チモール	- 歯周組織の炎症を和らげる
c アラントイン	- 歯周組織の修復を促す
d 塩化セチルピリジニウム	- 歯肉溝での細菌の繁殖を抑える

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 54

口内炎に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口内炎は、通常であれば1～2週間で自然寛解するが、一度に複数箇所が発生して食事に著しい支障を来すほどの状態であれば、医療機関を受診することが望ましい。
- b 副作用として口内炎が現れる一般用医薬品はない。
- c 口内炎が長期間に渡って症状が長引いている場合には、口腔粘膜に生じた腫瘍である可能性もある。
- d 口内炎が再発を繰り返す場合には、ベーチェット病などの可能性も考えられるので、医療機関を受診することが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 55

ビタミンB₁主薬製剤に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 しみ、そばかす、日焼け・かぶれによる色素沈着の症状の緩和に用いられる。
- 2 神経痛、筋肉痛・関節痛（腰痛、肩こり、五十肩など）、手足のしびれ、便秘、眼精疲労、脚気の症状の緩和に用いられる。
- 3 末梢血管障害による肩・首すじのこり、手足のしびれ・冷え、しもやけの症状の緩和に用いられる。
- 4 骨歯の発育不良、くる病の予防に用いられる。

問 56

生薬成分に関する記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。

()は、イネ科のハトムギの種皮を除いた種子を用いた生薬で、肌荒れやいぼに用いられる。

- 1 ヨクイニン
- 2 ジオウ
- 3 センキュウ
- 4 ニンジン
- 5 インヨウカク

問 57

次の記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。

漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、()には使用しないこととされている。

- 1 生後3ヶ月未満の乳児
- 2 生後6ヶ月未満の乳児
- 3 1歳未満の乳児
- 4 7歳未満の幼児
- 5 15歳未満の小児

問 58

消毒薬に用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a クレゾール石鹼液は、ウイルスに対する殺菌消毒作用がエタノールより強い。
- b イソプロパノールは、微生物の蛋白質を変性させ、結核菌を含む一般細菌類や真菌類に対する殺菌消毒作用を示す。
- c トリクロルイソシアヌル酸は、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられる。
- d サラシ粉は、皮膚刺激性が弱く、手指・皮膚の消毒に用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 59

殺虫剤に含まれている成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ジクロールボスは、ピレスロイド系殺虫成分である。
- 2 フェノトリンは、昆虫成長阻害成分である。
- 3 ダイアジノン¹は、有機リン系殺虫成分である。
- 4 プロポクスルは、殺虫補助成分である。

問 60

尿糖・尿蛋白^{たんぱく}検査に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 食事の影響で尿が中性～弱アルカリ性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- b 尿蛋白^{たんぱく}検査の場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とする。
- c 検査薬は、長い時間尿に浸した方が、正確な検査結果が得られる。
- d 正確な検査結果を得るため、出始めの尿を検体とすることが望ましい。

- 1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)